

〔熱中症対策について〕

学校では、暑さ指数（WBGT）を参考にしながら、熱中症の予防に努めています。

暑さ指数（WBGT）は、人体と外気における熱のやりとり（熱収支）に着目したもので、「湿度」・「周辺の熱環境」・「気温」から割り出す指標です。単位は気温と同じ摂氏（℃）で示されますが、その値は気温とは異なります。

暑さ指数（WBGT）とそれが示す運動指針は、以下のようになります。

- 31℃以上・・・危険（運動は原則中止）
- 28～31℃・・・厳重警戒（激しい運動は中止）
- 25～28℃・・・警戒（積極的に休憩）
- 21～25℃・・・注意（積極的に水分補給）
- 21℃未満・・・ほぼ安全（適宜水分補給）

暑さ対策が必要な時期には、1日に3回、「熱中症チェッカー」や「環境管理 温湿度計」を活用して、暑さ指数（WBGT）を測定します。その結果を職員室に掲示し、教職員全員で情報を共有しています。

暑さ指数（WBGT）が31℃を超える場合は、原則、体育や外遊びを中止にしますので御了承ください。



熱中症チェッカー



環境管理 温湿度計



職員室に掲示

学校では、熱中症の予防に引き続き努めてまいりますので、御協力をお願いいたします。